

振袖にあわせてオーダーメイドした髪飾りが印象的！「流行のデザインにとらわれず、人とかぶらないようにしました！」



「仲良し3人組のうち1人が普段メガネをかけているので、アイウェアで遊べないかと、この日に合わせてサングラスを買いました！」



スーツが多い男性陣の中で袴をチョイス！「色もパッと見て目立つ、銀や白を選んできました！」



特集 はたちのつどい

1月11日、常陸大宮市文化センター●ロゼホールにおいて「令和8年はたちのつどい」を開催しました。今年度ははたちのつどい対象者は315人で、そのうち250人が出席しました。出席者たちは、思い思いの振袖やスーツなどに身を包み、旧友との再会に話をはずませ、会場にはにぎわいがあふれました。今月号では、はたちのつどいに出席した皆さんのフレッシュな笑顔と、この日のために準備した晴れの日のファッション、代表者による「はたちの主張」や市長からのメッセージをお届けします。

鈴木市長からメッセージ

約700万年前の人類の起源から、ご先祖様が誰ひとり欠けることなく続いてきたからこそ、私たちがこの世に存在しています。新成人の皆様方が、ご先祖様から受け継いだすきを未来に残し、一つしかない命を大切に社会のために使うような大人に成長してもらいたいと思います。



はたちの主張



大人の仲間入りができることは、うれしくもあり、怖くもある複雑な心境です。今は東京で多様なメディアについて学び、「正しい情報を伝えたい」という目標に向かって突き進んでいます。これまでの経験を糧に自分自身の納得のいく正しい道を進んでいきたいです。この先、多様性と変化が共存する社会が私たちを待っていますが、みんなが穏やかで優しい気持ちを持って作る温かい未来を、私たち若者が創っていきましょう。



二十歳となった今、私たちは夢に「目的」という明確なものを設けるべき時です。私は、この生まれ育った「常陸大宮市」に目的を見出したい。先達が守り、つないでくれたこの故郷を、次の世代に「夢を語る場所」としてつなぐことが、私たちの役割ではないでしょうか。私たちはすでに、自らの一挙一動が常陸大宮市を形作るフェーズに足を踏み入れています。その責任と確信、誇りを胸に、今日、ここから、次の一步を踏み出そうではありませんか。